

3年部会の目指す子供像

自分たちの暮らす地域への理解をもとに、地域社会のこれからを考えようとする子供の育成

I 目指す児童像

新学習指導要領が全面実施となり、第3学年の内容が大きく変わった。子供が見方・考え方を働かせながら、地域の社会的事象について問いをもち追究していく問題解決的な学習の一層の充実が求められている。特に3年生は社会科の入門期であり、これまでの生活科を中心とした学習を基盤として、地域社会にある社会的事象について理解を深めていく学習を行っていく。

3年部会では、地域や地域に暮らす人々の姿を通して社会的事象の理解を深める学習についてこれまで以下の3点を中心に研究を進めてきた。

- ①子供が地域をより深く理解するための、地域教材の開発や関わる人の姿の教材化。
- ②子供の興味関心を高め、学習の見通しをもたせるための単元導入場面の工夫。
- ③子供の問題解決的な思考を導くための単元展開の工夫。

児童が地域の様子や人々の姿、関係機関の協力、他地域とのつながりといったことを理解する学習を重ねることで、自分達の生活する地域を深く理解し、地域社会のこれからを考えることができるような学習を目指すこととした。

II 研究の仮説

子供の**追究意欲**を高めるための地域教材の開発や指導法の工夫を行うことで、地域の特色やよさを理解し、地域社会の**これから**を考えようとする子供を育成することができるだろう。

III 研究主題を実現するための手立て（今年度重視したもの）

今年度、昨年度の実践をもとに、新学習指導要領で3年に移行された安全単元について実践を行った。消防と警察単元の2つの小単元を中心に、以下の3つの手立てに重点を置いて授業研究を進めてきた。

（1）主体的に追究する問いの工夫

- 子供の問題意識を高める問いの設定
 - ・これまでの生活経験や学習との違いや共通点から、疑問をもてるような学習展開を工夫する。
 - ・学習問題の設定場面や学習計画を立てる際に見通しをもって追究ができるような問いを設定する。
- 疑問から問いを導く発問や教材提示
 - ・子供が疑問をもつことができるような教材提示を工夫する。
 - ・子供がもった疑問から、追究に向かう問いを導く教師の発問を工夫する。

（2）見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

- 対話的に学習を進めるための学習活動
 - ・写真や数値やグラフといった統計資料について発達段階に即した提示方法を工夫する。
 - ・地域の見学・調査活動や、地域の人々との関りを通して学習する場면을意図的に設定する。
 - ・子供同士がお互いの意見や考えを交流する場면을工夫する。
- 見通しをもって学習を進める単元展開
 - ・「つかむ→調べる→まとめる→いかす」といった問題解決的な学習過程を定着させる。
 - ・小単元ごとの関連（生産と販売、消防と警察）を意識した単元展開を工夫する。

（3）子供の学びを確かにする評価の工夫

- 子供の理解や思考を表出させる表現方法
 - ・学びの足跡が残るようなノートやワークシートへのまとめ方を工夫する。
- 見通しと振り返りを関連させた評価
 - ・単元の各段階での記述をもとに、考えの深まりや変容について評価し指導に生かしていく。
 - ・3観点の評価規準をもとに、子供達の学習の状況を単元の適切な学習場面で見取っていく。